

2019年8月28日

コミュニケーション・ケア技法
「ユマニチュード®」社内向け実践研修を実施しました
～ 哲学・技法の習得から実践を通して ～

2019年5月22日付プレスリリースにてお知らせの通り、当社育成メンバーに向けた「ユマニチュード®実践者育成 10日間コース(以下、本研修)」を実施いたしましたので、取組み、実践後の事例等についてご紹介いたします。

本研修は約3ヶ月間かけて当社有料老人ホーム「はなことば町田鶴川」(東京都町田市)で行いました。ジネスト・マレスコッティ研究所所長 イヴ・ジネスト氏及び東京医療センター総合内科医長 本田美和子氏による研修に加えて、ご入居されるお客様のご協力のもと※、研修では実際にお客様と向き合い、コミュニケーション・ケア技法ユマニチュードを実践しながら、理解・習得を深めていきました。また映像による記録を行い、実践したケアを検証しながら、習熟度を高めていきました。
※本研修の実施においては、事前にご入居されるお客様及びご家族様等のご同意を得て行いました。

<研修の様子>



【講義内容】

講義はテキストに加え、実例のケア映像を多く用いる形で行われました。フランス語の解説も含めての内容となりました。

ユマニチュードの哲学・定義においては、「ケアする人とは」「人とは」「ケアとは」についてを学び、またユマニチュードの技法については、「見る」「話す」「触れる」「立つ」という4つの柱と、これらを元に行うケアを学びます。

ここで目指すことは「機能回復」「機能維持」「最後まで寄り添う」等お客様に合った正しいレベルのケアを選択できる「ケアをする人」となること。実際にお客様対応を行いながら、お客様本来の能力を引き出すことが重要となります。

【研修結果】

正しいケアの手順を行うことで介護を受ける方が「人」として本来の生活を取り戻すことができること、またケアをする側の身体負担軽減の介護技術も同時に習得することができました。

さらには、本研修で習得したユマニチュードの「哲学・技法」を現場の職員へ実践して伝え、ケアを継続することで下記のように好事例がみられたのでご紹介いたします。

ケース1:水分やお食事が進まないA様の場合

→ステップ① A様の「視野範囲」(お声掛け・食事介助等を通して)を確認。

→ステップ② 認識レベルの確認。

→お食事の量が増えてきた。

●得られた効果:【食事量の改善】【健康回復】

ケース2:入居1ヶ月 入浴拒否・更衣拒否。いつも険しい表情で生活されているB様の場合

→ステップ① B様との「出会い方」に重点を置く。

お部屋へ入る際のノックの繰り返しや都度のご挨拶により職員の存在をB様に認識いただくことを心掛ける。

→ステップ② お気持ちに寄り添い拒否の理由を探る。ご入居以前の過去を探る。

→ステップ③ B様の嫌がることはしない。

→職員に対して笑顔・会話が增え、一連の入浴介助が可能となった。

他のお客様との交流が増え、楽しく生活を送られるようになった。

●得られた効果:【清潔保持】【こころの安定】【日常生活の質の向上】

ケース3:毎日同じ内容で大きな声で怒っているC様の場合 -認知症あり-

→ステップ① C様と職員との「距離」(パーソナルスペース)の確認することで信頼関係を築く。

→ステップ② C様に対する全職員による接し方の統一化。

→ステップ③ 「納得感」を得られる工夫をする。

ひとつひとつの行動を職員と共にしながら、C様ご自身で行っていただく。

→怒る回数が減少、落ち着いてお過ごしになる時間が増えてきた。

他のお客様と交流が増え、笑顔が見られるようになった。

●得られた効果：【こころの安定】【日常生活の質の向上】

【研修に参加した育成メンバーの所感】

「人間らしさ」を考えたケアを行うことで「その人らしさ」を取り戻し、機能回復する可能性を増やせることを実感しました。

本人の観点による安らぎや充実感が得られる生活を送っていただけるよう「ご自宅と同じような生活リズムを考えたケア」をしていくことに重点を置きたいと思います。また、個人個人のお客様の声に耳を傾け、気づきの多い職員を増やしていきたいと思っています。

その為にも「ユマニチュード®実践者育成コース」を受けた職員が、拠点とするホームの職員に対して、哲学や技術を実践中心で伝え広めていくように努めてまいります。

<育成メンバー>



当社といたしましては、本研修の成果も踏まえ、引き続き、当社が運営する有料老人ホームでのサービスの質の向上に取り組んでまいります。

以上